

グローバル・イノベーション学によって 日本経済発展の 原動力となる人材を育成

グローバル化が進む現代社会において、私たちが最も注目すべき問題は何か、またそれをどのように解決すればよいのか。世界と日本を取り巻く状況について、東洋大学が今年発足した「グローバル・イノベーション学研究センター」の竹中平蔵センター長・東洋大学教授と国際戦略研究所(IISS)所長であるジョン・チップマン博士が対談を行った。チップマン博士は同センター主催のセミナー「新興国の経済発展と投資機会」でもアフリカなど新興国についての地政学的分析を行い、世界に進出しようとする日本企業・団体に多くの示唆を与えている。

世界全体と地域に目を向ける 「グローバル」な視点を持つ

竹中 現在の国際社会ではグローバル化が進む一方で、個々の地域の問題が多様化してきています。私たちが直面している課題について、地政学の権威であるチップマン博士のお考えをお聞かせください。

チップマン 世界が抱える問題の多くは、トランスナショナル(多国間に渡るもの)となっています。例えば、ミャンマーにおける新政権の発足が中国やインドとの関係の変化につながるなど、



東洋大学 国際地域学部教授
グローバル・イノベーション学研究センター長

竹中 平蔵 氏

2001年経済財政政策担当大臣。2002年金融担当大臣・経済財政政策担当大臣。2004年経済財政政策・郵政民営化担当大臣。2005年からは総務大臣・郵政民営化担当大臣を歴任。2016年から東洋大学国際地域学部教授、グローバル・イノベーション学研究センター長。

一国内政の問題がすぐさま周辺国を巻き込む大きな問題となります。一方で、一国の中での地域差にも目を向けなければなりません。インドネシアのバリ島にテロの脅威があったとしても、それが首都ジャカルタでの経済活動に影響するとは限りません。新聞の見出しの「インドネシアでテロ」という言葉に惑わされてはいけません。世界の情勢はもはや「国」という単位では捉えきれなくなっているのです。

竹中 今、「グローバル」と「ローカル」を合わせた「グローバル」という言葉が使われるようになってきました。グローバル化が進むにつれ、地域の個別の問題が、よりクローズアップされるようになってきているのです。1993年、チェコスロバキアという国がチェコとスロバキアに分かれる際、私は同国の首相に会う機会があり、「ヨーロッパの国々が統合に向かう中、なぜ今分離する必要があるのか」と尋ねたところ、「ユニフィケーション(統一)が進むからこそ、個々のアイデンティティの確立が大切になってくるのだ」という答えが返ってきました。普遍化が進むほど、自分の国や個人の役割に意義を求めるようになってくるのでしょう。日本人もこれから世界に出ていく機会が増えるにつれ、「自分が日本人である」というこ



とをより強く意識する場面が増えてくることと思います。

チップマン 国際社会に出ていくにあたり、私は政治と経済の密接な結びつきを理解することが大切であると説いています。南シナ海の排他的経済水域や資源の問題は、中国・フィリピン・マレーシア・ベトナムなどによる領有権主張の問題を理解することなしに語ることはできません。また、過激派組織として知られるIS(イスラム国)は、ヨーロッパ経済の悪化を背景として勢力を伸ばしてきました。イスラム教という宗教・思想の理解だけで把握できる問題ではありません。

竹中 国際的な紛争やテロ問題を理解するにも、やはり背景となる経済と文化、思想に対する知識が必要ですね。経済は社会の下部構造であり、それを土台として文化や思想が成り立っているの

です。日本の文化が優れていると称えられるのは、やはり確かな経済があればこそです。一方で、文化が豊かであれば経済にもクリエイティビティが生まれる。経済と文化・思想には相互作用がありますね。

ド、インフラを組み合わせる力を持ったアメリカの国力が飛躍的に伸びました。日本はいわゆる“軽薄短小”で深める技術には強いのですが、ソフトを作る人、ハードを作る人が別々で、技術や人材の交流が進んでいなかったことから、後れを取ったのではないかと考えられます。

チップマン 日本でも、新しいテクノロジーを柔軟に取り入れることができる企業家精神に富んだ人材が育つことが期待されますね。

竹中 私が4月からセンター長を務めている東洋大学のグローバル・イノベーション学研究センターが、まさにその取り組みを行っています。「イノベーション」とは、経済学者ヨーゼフ・アロイス・シュンペーターが定着させた言葉で、その意味は「技術革新」に限らず、「新たなビジネスを創造する者が経済を変動させる」という考え方を指します。当センターでは、グローバルな社会の中でさまざまなシステムにイノベーションを起こし、リーダーシップをとって課題を解決することができる人材の育成について考えています。

チップマン グローバルな人材の育成はどの国でも重要な課題です。国家間でのグローバル化が進む一方で、若者の意識が自分の住む街や家族・友人など身近な問題に集中しがちであるというのは、先進国都市部で共通の現象となっています。

竹中 経済社会の中での最大の資源はやはり人間です。東洋大学には、2017年度に「国際学部グローバル・イノベーション学科^{*}」を開設するという構想もあります。課題が山積するグローバル社会において、国際社会システムにイノベーションを起こしうる人材を育成するため、経済学を基礎とした視点で課題を分析する能力、課題解決に向けた実践的能力、イノベーションを

*2016年5月現在、届出設置書類提出中および収容定員増加の認可申請中。学部・学科名は仮称であり、計画内容は変更になる可能性があります。



国際戦略研究所(IISS)所長

ジョン・チップマン 氏

米ハーバード大学を卒業、英国オックスフォード大学で博士号を取得。「アジア安全保障会議(シヤングリラ会合)」を主催する世界的な安全保障・社会・経済の研究機関である国際戦略研究所で、1993年から所長を務める。

推進するための構想力およびリーダーシップ能力、異文化環境における実践的な語学力やコミュニケーション能力も養うことを目的としています。このグローバル・イノベーション学はまったく新しいコンセプトの学問分野であることから、研究センターがこれを理論面で支えています。

チップマン 竹中教授という第一級のエコノミストが率いる東洋大学グローバル・イノベーション学研究センターは、世界の教育機関から注目される存在になることと思います。また、東洋大学でグローバル・イノベーション学を学んだ人材が世界で活躍することを期待しています。

グローバル・イノベーション学研究センター Center for Global Innovation Studies <2016年1月設立>

グローバル・イノベーション学という学問体系を創造・確立し、国際社会の多様なシステムへのイノベーション理論と方法の研究、ならびにグローバル・イノベーション活動を担う人材育成方法の研究を目的とする。

グローバル化とイノベーションのメカニズムと相互作用を追究。未来世代のために真に公正で豊かな、活力に満ちた国際社会の動向を先導する役割を担うことを目標とする。

より強固なグローバル社会の基盤を構築するため、諸外国との知的交流の機会提供を目的とした、「インテレクチュアル・エクスチェンジ(知的交流)」のシステム構築に注力する。